

日立キャピタル株式会社 臨時株主総会

三菱UFJリース株式会社との合併を 通じた経営統合に関する説明資料

(注:2021年2月26日開催の臨時株主総会の議場にて投影のうえご説明する資料を、事前にご提供するものです。)

1. 本経営統合に至る経緯および背景

- 両社は2016年5月の資本業務提携の締結以降、海外インフラ投資事業の強化など協業を推進
- 経営統合を一つの選択肢に、その関係強化に向けて協議を重ねた
- 社会・企業活動を取り巻く大きな環境変化にいち早く適応し、先進的なアセットビジネスの領域を、さらに開拓していくためには、合併が最適と判断
- 相互尊重・公平の精神、ならびに建設的な姿勢をもって検討を進め、両社で合併に合意

メガトレンド

気候変動 資源不足	脱資源・ 脱化石燃料	人口構造の 変化	テクノロジーの 進歩	都市化	世界の経済力 のシフト	多極化する 世界
サプライチェーンの 質的再構築		デジタル化 データエコノミー化		大量生産・消費から 循環経済への変革		COVID-19 により増勢

想像以上のスピードで産業レベルのビジネスモデルチェンジ

両社の
共通課題

従来型のリース・ファイナンスに加えて、事業の投資・運営などを通じた社会的課題の解決

大きな環境変化を新たなビジネスの機会と捉え、多様なお客様と社会のニーズに応え、
社会価値を創造するためにも、一層の事業基盤の拡大・財務基盤の強化が必要

2. 合併を通じた経営統合の目的

- 両社は統一されたビジョン・理念のもと、一つの会社として事業を展開することで「(i)ビジネス領域の相互補完」「(ii)経営基盤の強化」、さらに、これらをベースとした「(iii)新たな価値創造」を実現
- 外部環境の影響を受けにくい強固で安定的な収益基盤の実現に加え、強化される体力を活かして投資活動を一層拡大し、収益力向上を図る
- 競争力の源泉である強靱な経営基盤の構築を図り、リース会社の枠を超えた新たな価値を提供



(i) ビジネス領域の相互補完

- ✓ ビジネス領域、展開地域双方におけるポートフォリオの分散
- ✓ 強固で安定的な収益基盤の構築
- ✓ 強化される体力を活かした投資活動の拡大



(ii) 経営基盤の強化

- ✓ 両社が有する資源・ノウハウの結集
 - 人材(財)の活用・強化
 - パートナー・ネットワークの活用
 - 財務基盤強化
 - リスクマネジメントの高度化
 - デジタル化の推進



(iii) 新たな価値創造

- ✓ 従来のリース会社の枠を超えた新しい価値の提供
- ✓ 業界屈指のグローバルプレイヤーとなり、拡大する規模と蓄積される資本を活かし、世界各地のお客様や地域社会に貢献
- ✓ 新時代の社会的課題解決企業に成長

2. 合併を通じた経営統合の目的 – ビジネス領域の相互補完 –

- 日立キャピタルの強みは販売金融に加え、日立ビジネスやコンシューマーファイナンスを含む海外地場ビジネス
- 三菱UFJリースの強みはコーポレートファイナンスに加え、不動産やグローバルアセット等のアセットビジネス
- 両社の注力重点分野は、社会インフラ、環境・エネルギー、モビリティ等であり、理想的な相互補完関係
- 三菱HCキャピタルのビジネス領域はフルラインアップ化を実現し、両社が強みを有するビジネスを強化・拡大していく

両社の特徴	日立キャピタル	三菱UFJリース	
	販売金融	↔	コーポレートファイナンス
	欧州に強み	↔	日本に強み
	日立ビジネス (重要な金融パートナー) 海外地場ビジネス (UKコンシューマーファイナンス等)	↔	不動産ビジネス (証券化ファイナンス、不動産投資) グローバルアセット (航空、鉄道貨車、海上コンテナ)
共通の注力 重点分野	社会インフラ、環境・エネルギー、モビリティ等		

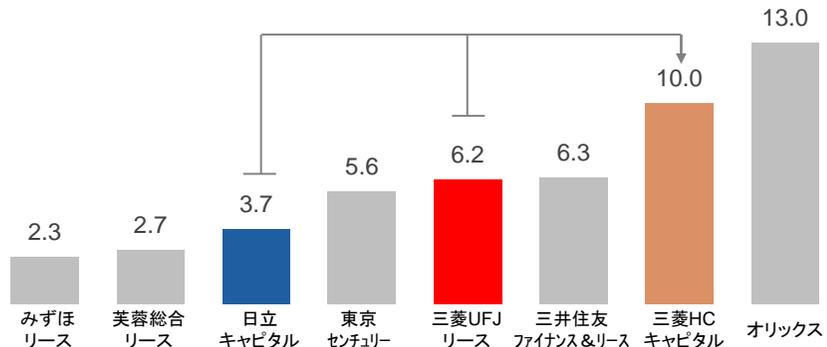
両社の強みのある分野	コーポレート ファイナンス	海外 地場 ビジネス	販売金融		ヘルス ケア	環境・ エネルギー		海外 インフラ	不動産			モビ リティ	グローバルアセット			企業 投資	BPO
			サプライヤー	ヘンダー		太陽光	風力		リース	金融	投資		航空	鉄道 貨車	海上 コンテナ		
			三菱HCキャピタル	○		○	○		○	○	○		○	○	○		
日立キャピタル		○	○	○	○	○	○		○			○				○	
三菱UFJリース	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
JII*								○									

※ JII: ジャパン・インフラストラクチャー・イニシアティブ株式会社

3. 三菱HCキャピタルの定量的な姿

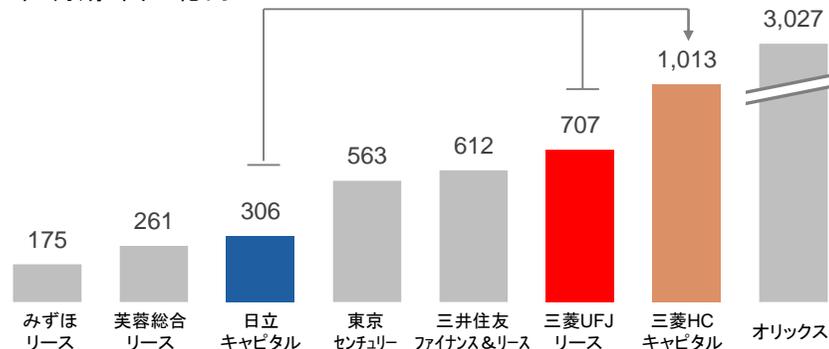
総資産 10兆円

2020年3月期/単位:兆円



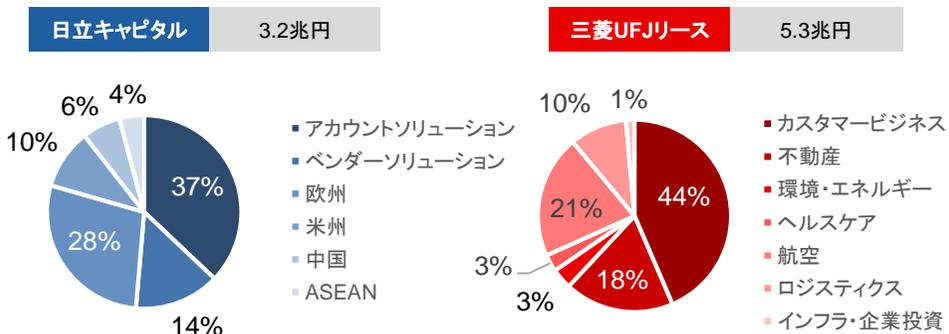
純利益 1,000億円超

2020年3月期/単位:億円



セグメント別資産※割合

2020年3月期



※日立キャピタルは営業資産、三菱UFJリースは事業資産を記載

格付

2020年3月末時点

日立キャピタル			三菱UFJリース		
格付機関	長期	短期	格付機関	長期	短期
S&P	A-	A-2	S&P	A-	A-2
Moody's	-	Prime-2	Moody's	A3	-
JCR*	AA-	J-1+	JCR*	AA	J-1+
R&I*	A+	a-1	R&I*	A+	a-1

※:JCR:日本格付研究所、R&I:格付投資情報センター

4. 三菱HCキャピタルの経営ビジョン・基本戦略

経営ビジョン

社会的課題の解決

持続可能な成長

企業価値の向上

提供価値

社会価値創造企業



ソリューション

最適化提案

社会的課題を解決し、社会価値を創出

サービス開発

ESG経営推進

職場環境作り

事業機会の拡大

株主利益の拡大

三菱HCキャピタルに対する自信と誇り

パートナー

株主

社員

ビジネスモデル

× アセットビジネスのプラットフォームカンパニー※1

アセットホルダーとして「アセット価値創出力」を活かし、アセット価値を収益化

アセットホルダー

+

アセット価値創出力

アセット型
ファイナンス
ソリューション

アセット
投融資

アセット
付加価値
サービス

アセット
利用価値
提供

アセット
活用事業

信用リスク

アセットリスク

投資リスク

三菱HCキャピタルのめざす姿

= Voyager to the Frontier

注力領域においてリース会社の枠を超えた先進的アセットビジネスを展開、開拓者精神で社会価値の創造を続け、経営ビジョンを達成する

注力領域

社会資本/
ライフ※2

環境・
エネルギー

モビリティ

販売金融

グローバル
アセット※3

展開地域(5極)

日本

欧州

米州

中華圏

アジア・
オセアニア

経営基盤

人材(財)の
活用・強化

パートナー・
ネットワークの活用

財務基盤
強化

リスクマネジ
メントの高度化

デジタル化の
推進

社会・環境変化

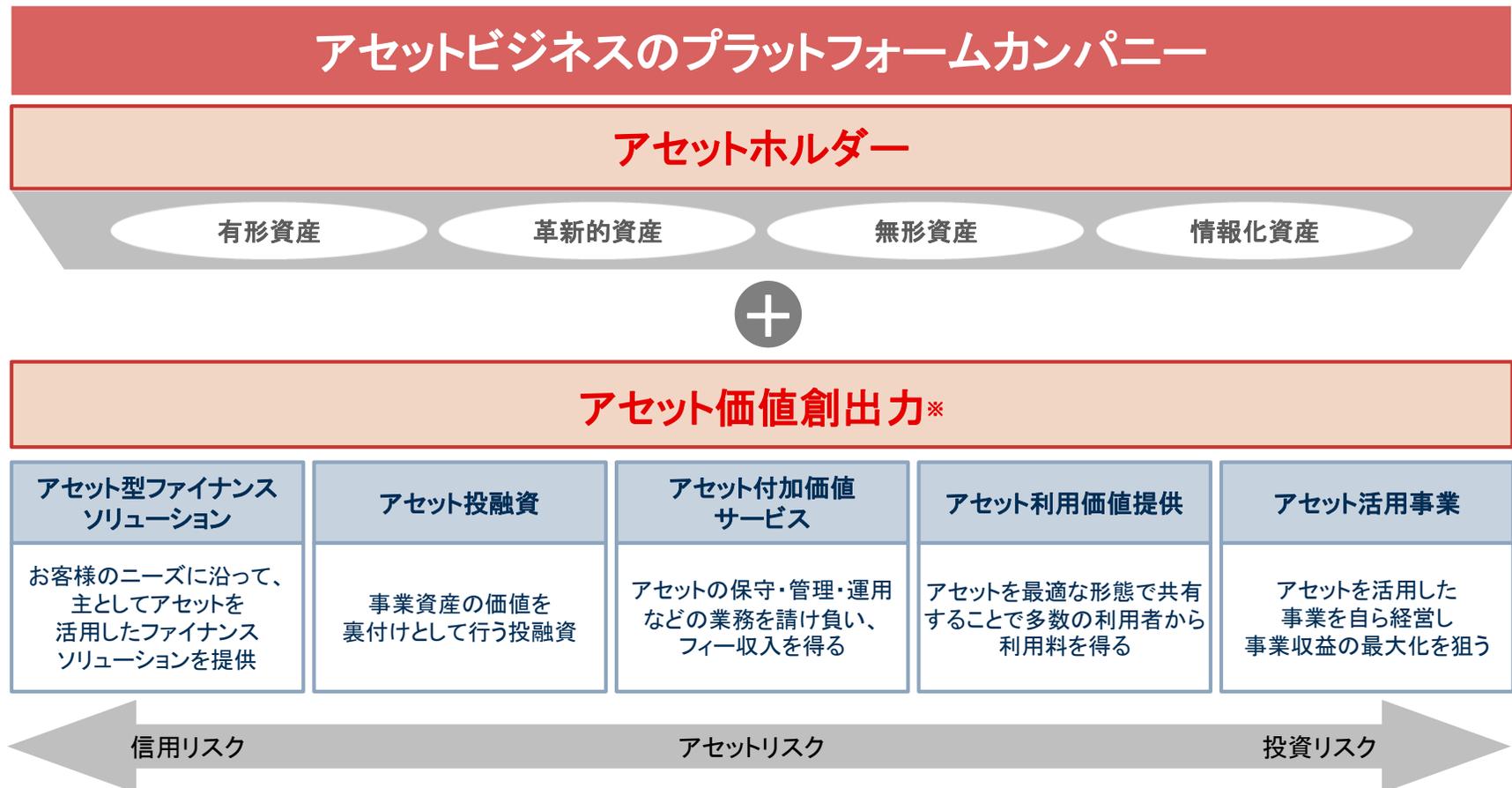
※1 アセットは、情報化資産(ソフトウェア・データベース)、革新的資産(研究開発・ライセンス)、経済的競争力(人材/財・組織)等の無形資産も含む

※2 社会資本/ライフとは「インフラ・まちづくり、ヘルスケア、食農・生活」分野のこと

※3 グローバルアセットとは「航空機・航空機エンジン、鉄道貨車、海上コンテナなどグローバルに市場価値を有する資産」のこと

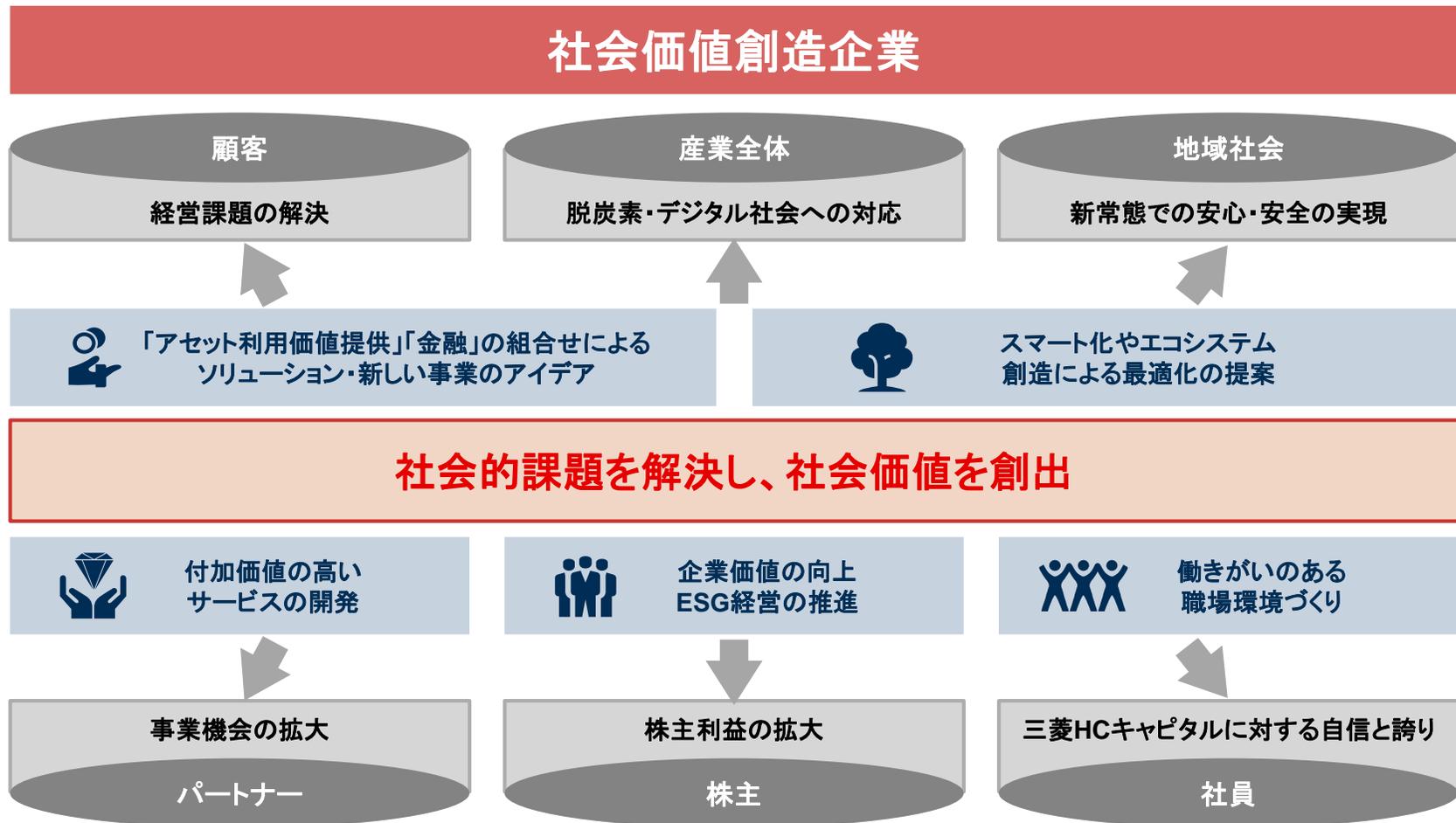
4. ②ビジネスモデル

- 有形資産のみならず、無形資産も広く保有するアセットホルダーとして、「アセット価値創出力」を活かしたビジネスを積み重ね、アセット価値の収益化を図る
- アセットビジネスの5つの形態のそれぞれを研ぎ澄まし、ビジネスモデルを常に刷新・進化



4. ③提供価値

- 環境変化に適応し、強固なビジネス基盤を活用した企業活動を通じて社会的課題を解決
- 多様なステークホルダーの視点を取り入れることで、産業・社会全体への社会価値創造を図る

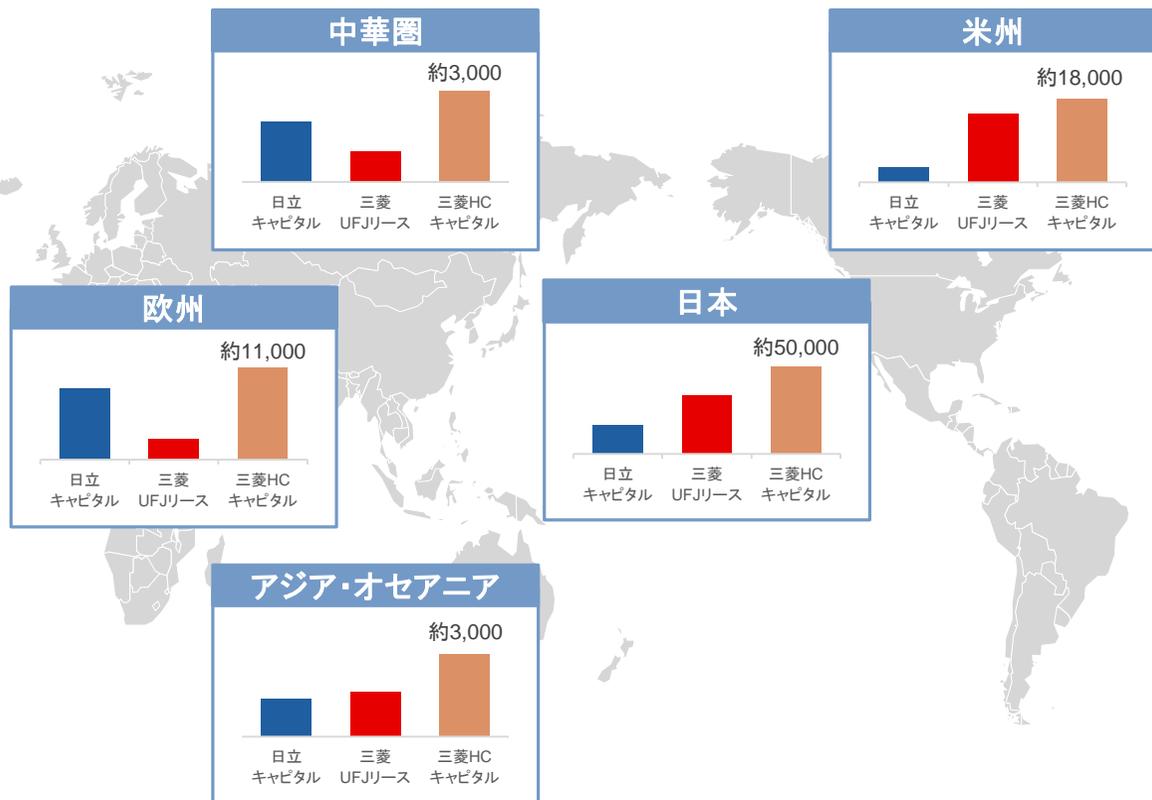


4. ④展開地域

- 「日本」「欧州」「米州」「中華圏」「アジア・オセアニア」の5極で事業を積極展開
- 各地域の特性を見極め、地域に根付いたビジネスモデルへの刷新を継続することで、それぞれの地域で独自の存在感を発揮

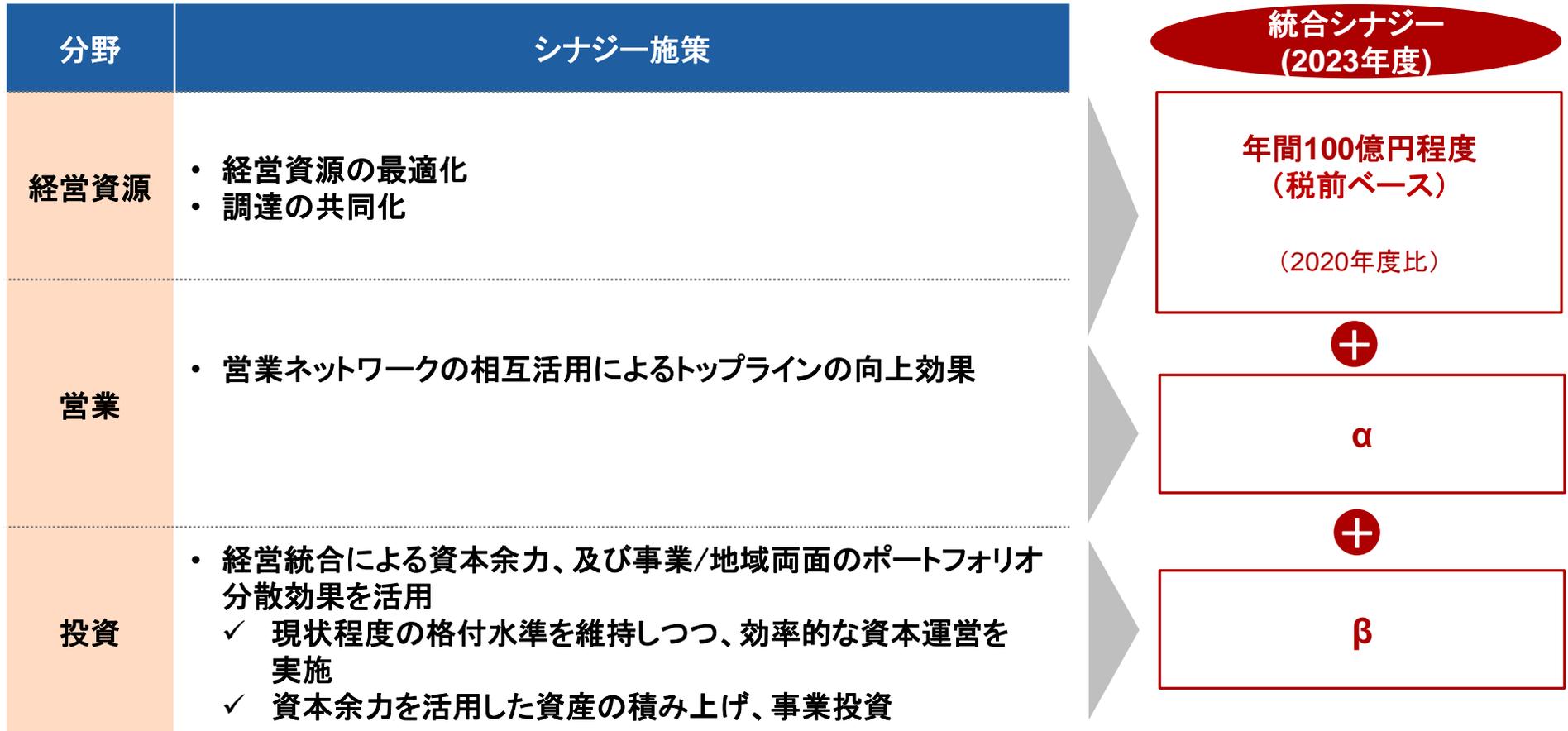
拠点別資産※残高

2020年3月期/単位: 億円



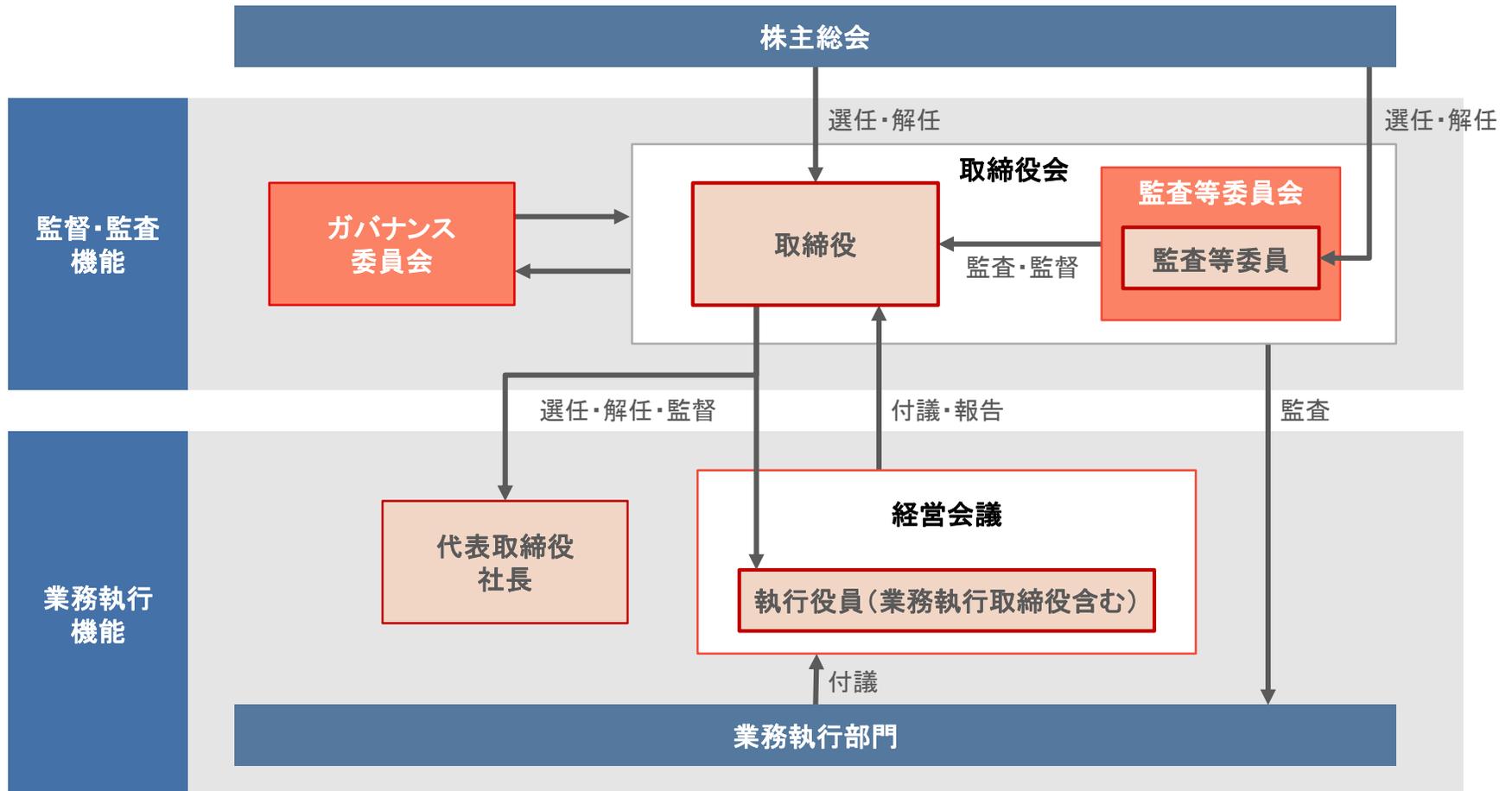
拠点	拠点/会社数			展開5極
	日立 キャピタル	三菱UFJ リース	両社合算	
日本	29	44	73	日本73
英国	2	0	2	欧州 15
ポーランド	1	0	1	
アイルランド	0	3	3	
オランダ	3	0	3	
ドイツ	1	0	1	
オーストリア	1	0	1	
ベルギー	1	0	1	
チェコ	1	0	1	
スロバキア	1	0	1	
ハンガリー	1	0	1	
米国	2	6	8	米州 10
カナダ	2	0	2	中華圏 9
中国	2	3	5	
香港	2	2	4	アジア・ オセアニア 19
シンガポール	1	1	2	
タイ	2	4	6	
インドネシア	2	6	8	
ベトナム	0	1	1	
マレーシア	1	0	1	
ミャンマー	0	1	1	
合計	55	71	126	

5. 本経営統合によるシナジー



6. 三菱HCキャピタルのコーポレート・ガバナンス体制

- 三菱HCキャピタルは経営の公正性・透明性を高め、取締役会の監督機能を強化した「監査等委員会設置会社」とし、コーポレートガバナンスの充実を図る



7. 合併比率・三菱HCキャピタルの概要

合併比率

三菱UFJリース：日立キャピタル

1: 5.10

日立キャピタルの株式1株に対して
三菱UFJリースの株式5.10株を割り当て

商号	三菱HCキャピタル株式会社
本社所在地	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
会計基準	日本基準

HITACHI
Inspire the Next

日立キャピタル